

第31回
北区河川生物生息調査
報告書
平成26年度



平成27年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図 (平成26年度)

釣り調査地点 A~J
 投網調査地点 ①~⑱



- 投網調査地点**
 (◎26年9月11日 ☆9月18日 ★9月30日)
 (荒川)
- ★-①戸田橋下流200m付近
 - ★-②戸田橋下流1.6km付近
 - ★☆-③菖蒲川荒川合流点
 - ★☆-④JR荒川鉄橋上流200-400m付近
 - ★☆-⑤新荒川大橋真下
 - ☆-⑥新荒川大橋下流250-300m付近
 - ★-⑦新荒川大橋下流600-800m付近
 - ★-⑧旧岩淵水門付近
 - ★☆-⑨旧芝川荒川合流点
 - ★-⑩新岩淵水門と旧岩淵水門の間
 - ◎-⑪荒川子どもの水辺ワンド
- (新河岸川)
- ★-⑫浮間水再生センターポンプ場排水口付近
 - ★-⑬岩淵橋と志茂橋の間
- (隅田川)
- ★-⑭新岩淵水門下流
 - ☆-⑮新神谷橋付近
 - ☆-⑯みやぎ水再生センター排水口付近
- (石神井川)
- ☆-⑰石神井川王子駅下トンネル内
 - ◎-⑱もみじ緑地ワンド横本流
 - ◎-⑲もみじ緑地ワンド

- 釣り調査地点(26年9月18日)**
 (荒川)
- A 菖蒲川荒川合流点右岸
 - B 荒川子どもの水辺ワンド
 - C 赤羽ゴルフ場横水路
 - D JR荒川鉄橋上流200m付近右岸
 - E JR荒川鉄橋上流150m付近右岸
 - F 新荒川大橋下流150m付近右岸
 - G 新荒川大橋下流500m付近右岸
 - H 新岩淵水門下流100m付近荒川右岸
 - I 旧芝川荒川合流点
- (新河岸川)
- J 志茂橋付近左岸

はじめに

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

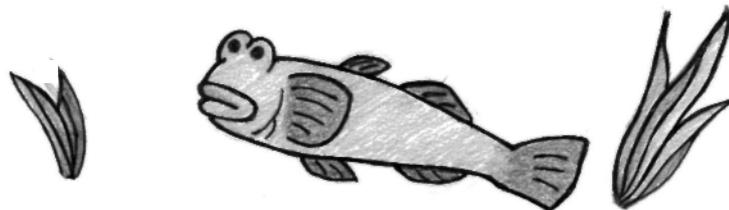
しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もがやすらぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

北区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を明らかにすることにより、生き物からみた河川環境や水質を判断することを目的に、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、平成26年度に実施した第31回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



【調査概要】

北区内の河川に生息している魚類を把握するために3回に分けて魚類調査を行いました。採集した魚は、種の同定、個体数の調査、全長・体長測定を行いました。

また、一部の魚については魚肉分析（可食部の総水銀・PCB・ヨウ素 131・セシウム 134・セシウム 137の含有量測定）をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月11日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド・荒川子ども水辺ワンド
第2回	9月18日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川・新河岸川・隅田川・石神井川・荒川子ども水辺ワンド
第3回	9月30日	魚類生息状況	船からの投網	荒川・新河岸川・隅田川



船上から投網を打って魚を採集



船上から手網で魚を採集



採集した魚は魚種・全長などを調べてから川に放すが、特定外来生物はその場で処分



荒川に設置した仕掛けで、ウナギ・モクスガニなどを採集

【調査結果】

30 種及び亜種（以下 種類とする）538 尾の魚類が確認されました。

東京都レッドデータリスト記載種（重要種）は 10 種類、環境省レッドリスト記載種は 3 種類、外来種は 4 種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

第 1 回調査では、夕方から夜にかけて東京都 23 区西部・東部を中心に雷を伴った猛烈な雨が降った影響により石神井川の水位は上昇し、流れは速く濁っていました。調査途中に大雨警報が発令されたため、例年より短時間で調査を終了しました。石神井川もみじ緑地ワンドではシマドジョウが初めて確認されましたが、元々この川には生息しないため、人為的放流と判断しました。第 2 回、第 3 回調査では天候もよく、例年通りの調査を行いました。荒川ではウロハゼと特定外来生物のコクチバスが初めて確認されました。



石神井川脇のもみじ緑地ワンド内の水を本流に排水すると魚の採集がしやすくなります。ワンドは本流の流水環境に静水・止水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。



石神井川の王子駅下はトンネルになっています。トンネル上流端の勾配が急峻で、内部では大量の魚類が溯上できずに集まっている様子が毎年確認されています。



荒川子どもの水辺ワンドは JR 東北線鉄橋と新荒川大橋に挟まれた高水敷にあります。前日からの大雨の影響によりやや濁っていました。



荒川子どもの水辺ワンドの維持管理や調査活動は、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられています。

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考		
				荒川	子供の水辺ワンド			石神井川	もみじ緑地ワンド				
1	ニシン	ニシン	コノシロ	65	0	0	0	0	0	65			
2	ウナギ	ウナギ	ウナギ	2	0	0	0	0	0	2	重要種		
3	コイ	コイ	スゴモロコ	0	4	0	0	0	0	4	国内移殖種		
4			モツゴ	0	28	0	0	0	0	3	31		
5			ニゴイ	7	0	0	0	0	0	0	7	重要種	
6			アブラハヤ*	0	0	0	0	0	1	55	56		
7			マルタ	3	15	0	0	0	1	0	19	重要種	
8			オイカワ	0	3	0	0	0	1	2	6		
9			ハス	1	11	1	0	0	0	0	13	国内移殖種	
10			ギンブナ	0	4	0	0	0	0	0	4		
11			ゲンゴロウブナ	1	0	0	0	0	0	0	1	国内移殖種	
12			コイ	0	3	0	0	0	0	0	3		
13			タイリクバラタナゴ	1	3	0	0	0	0	0	4	外来種	
—			コイ科稚魚（種不明）	2	0	0	0	0	0	0	2		
14			ドジョウ	ドジョウ	0	0	0	0	0	15	6	21	
15				シマドジョウ*	0	0	0	0	0	0	1	1	
16			ナマス	ギギ	ギバチ*	0	0	0	0	0	1	1	
17	ダツ	メダカ	メダカ	1	1	0	0	0	0	2	重要種		
18	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	4	2	0	0	0	0	6	外来種		
19	ボラ	ボラ	ボラ	29	30	0	0	0	0	59			
20	スズキ	スズキ	スズキ	12	1	3	0	0	0	16			
21		サンフィッシュ	ブルーギル	5	1	0	0	0	0	6	外来種		
22			コクチバス	1	0	0	0	0	0	1	外来種		
23		ヒイラギ	ヒイラギ	17	0	0	0	0	0	17			
24		ハゼ	アベハゼ	1	2	0	0	0	0	3	重要種		
25			ヌマチチブ	26	21	0	2	33	0	82	重要種		
26			シモフリシマハゼ	5	2	0	0	0	0	7			
27			ウロハゼ	1	0	0	0	0	0	1			
28			ウキゴリ属（種不明）	0	0	0	0	0	2	0	2		
29			マハゼ	73	11	1	4	0	0	89			
30	アシシロハゼ	7	0	0	0	0	0	7	重要種				
8目12科30種類			種類数	21	17	3	2	6	6	30	重 7種		
			個体数合計	264	142	5	6	53	68	538	外 4種		

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

【外来種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で特定外来生物・要注意外来生物と指定された種を「外来種」としました。採集した特定外来生物は駆除しました。今回、荒川で特定外来生物のコクチバスが初めて確認されました。

目名	科名	標準和名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	要注意外来生物
コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○				●	
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	
		コクチバス	○				●	

【重要種の確認状況】

東京都レッドデータリストの選定基準で指定されている種を「重要種」としました。東京都レッドデータリストは区部の評価を基準としました。



目名	科名	標準和名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都ランク	環境省ランク	
ウナギ	ウナギ	ウナギ	○				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
コイ	コイ	ニゴイ	○				準絶滅危惧		
		アブラハヤ				○*	絶滅危惧Ⅱ類		
		マルタ	○			○	留意種		
	ドジョウ	シマドジョウ				○*	絶滅危惧Ⅱ類		
ナマス	ギギ	ギバチ				○*	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類	
ダツ	メダカ	メダカ	○				絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
スズキ	ハゼ	アベハゼ	○					準絶滅危惧	
		アマチチブ	○		○	○		留意種	
		アシシロハゼ	○					留意種	

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

～東京都レッドデータリスト 2010年版～

東京都における保護上重要な野生生物種を次のカテゴリーに区分し、淡水魚類は38種類が選定されています。

【絶滅危惧Ⅰ類】 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

【絶滅危惧ⅠA類】 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

【絶滅危惧ⅠB類】 ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

【絶滅危惧Ⅱ類】 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

【準絶滅危惧】 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

【情報不足】 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

【留意種】 現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため上記カテゴリーには該当しないが、留意が必要と考えられるもの

～環境省第4次レッドリスト(2013)【汽水・淡水魚類】～

【絶滅危惧ⅠB類】 ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

【絶滅危惧Ⅱ類】 絶滅の危険が増大している種

【魚肉分析結果】

<総水銀及びPCB>

5種類6検体を選出し、可食部に含まれている総水銀とPCBの量を測定分析しました。すべての検体から総水銀とPCBが検出されましたが、暫定的規制値以下でした。

	種類	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	モクズガニ	石神井川	石神井川トンネル内	0.03	0.03
2	スズキ	隅田川	新神谷橋付近	0.19	0.1
3	ウナギ	荒川	新荒川大橋下流 250~300m付近	0.03	0.22
4	マハゼ	荒川	菖蒲川荒川合流点	0.04	0.11
5	スズキ	荒川	菖蒲川荒川合流点右岸	0.19	0.06
6	マハゼ	荒川	新岩淵水門下流 100m付近荒川右岸	0.05	0.07

暫定的規制値：総水銀…0.4mg/kg PCB（可食部のみ）内海魚…3.0mg/kg

分析方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

備考：総水銀とは水銀及びその化合物をいう。分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。

分析部位の可食部については、モクズガニ・ウナギ・マハゼ、小型のスズキは、それぞれ数尾の可食部を混合したものである。

<ヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム 137>

5種類6検体を選出し、可食部に含まれているヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム 137 の量を測定分析しました。すべての検体で不検出^{*}でした。

	種類	捕獲河川名	場所	ヨウ素 131	セシウム		
					134	137	合計
				バクレル/キログラム			
1	モクズガニ	石神井川	石神井川トンネル内	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)
2	スズキ	隅田川	新神谷橋付近	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)
3	ウナギ	荒川	新荒川大橋下流 250~300m付近	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)
4	マハゼ	荒川	菖蒲川荒川合流点	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)
5	スズキ	荒川	菖蒲川荒川合流点右岸	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)
6	マハゼ	荒川	新岩淵水門下流 100m付近荒川右岸	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<10)	不検出 (<20)

^{*} 不検出とは、() 内に示された検出下限値を超えないことを示す。

基準値：放射性セシウム（一般食品）…100 バクレル/キログラム

分析方法：ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法に準拠

備考：分析部位の可食部については、モクズガニ・ウナギ・マハゼ、小型のスズキは、それぞれ数尾の可食部を混合したものである。

【資料】

釣り調査の結果（平成26年9月18日）

（1）荒川

①菖蒲川荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	135~200	113~163	8
2	ブルーギル	102~128	81~103	3
3	マハゼ	137~140	109~112	2

②荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	74	59	1
2	ボラ	132	106	1
3	ヌマチチブ	42~70	35~55	19
4	マハゼ	80~122	64~103	7

③赤羽ゴルフ場横水路

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	246	207	1
2	マハゼ	87~117	72~93	18

④JR荒川鉄橋上流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	43~60	37~49	3
2	マハゼ	83~121	67~105	11

⑤JR荒川鉄橋上流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コクチバス	282	235	1
2	ヌマチチブ	45~58	37~45	3
2	マハゼ	93~111	76~88	3

⑥新荒川大橋下流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	204	175	1
2	マハゼ	104~137	89~111	3

⑦新荒川大橋下流500m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	111~117	90~95	2

⑧新岩淵水門下流100m付近荒川右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	93~135	74~111	11

⑨旧芝川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	131	106	1
2	マハゼ	83~115	65~84	7

（2）新河岸川

志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	76	59~63	2
2	マハゼ	94~125	72~101	4

第1回投網・手網調査の結果（平成26年9月11日）

(1)石神井川

もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	42~73	35~59	3
2	アブラハヤ	28~65	25~54	55
3	オイカワ	24~101	21~83	2
4	ドジョウ	21~145	19~126	6
5	シマドジョウ	40	35	1
6	ギバチ	33	29	1

もみじ緑地横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	アブラハヤ	21	19	1
2	ドジョウ	22~103	19~90	15

(2)荒川

荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スゴモロコ	23~28	20~23	4
2	モツゴ	62~80	57~64	27
3	マルタ	90~122	74~99	15
4	オイカワ	23~25	20~22	3
5	ハス	57~62	47~50	11
6	ギンブナ	88~133	69~104	4
7	コイ	176~193	142~156	3
8	タイリクバラタナゴ	42~53	33~48	3
9	メダカ	23	19	1
10	カダヤシ	21~24	17~21	2
11	ボラ	52~152	42~123	29
12	スズキ	133	110	1
13	ブルーギル	35	29	1
14	アベハゼ	18~25	15~19	2
15	ヌマチチブ	17~40	15~35	2
16	シモフリシマハゼ	33~48	28~39	2
17	マハゼ	62~102	47~84	4

第2回投網調査の結果（平成26年9月18日）

(1)荒川

菖蒲川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	245	203	1
2	マルタ	127	103	1
3	ヒイラギ	38	28	1
4	マハゼ	86~88	71~80	3

JR荒川鉄橋上流300m~400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハス	30	25	1
2	ボラ	113	93	1
3	ヒイラギ	43~46	36~37	3
4	マハゼ	113	88	1

新荒川大橋下流250~300m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ウナギ	431~531	398~495	2

新荒川大橋真下（投網・手網）

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	メダカ	25	21	1
2	カダヤシ	22~30	18~24	4
3	アベハゼ	16	12	1
4	ヌマチチブ	19~48	15~40	14
5	シモフリシマハゼ	25~35	21~27	5
6	マハゼ	126	102	1
7	アシシロハゼ	25~35	20~29	7

旧芝川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヒイラギ	35~43	29~35	9

(2)隅田川

新神谷橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハス	50	42	1
2	スズキ	221~432	185~335	3
3	マハゼ	112	89	1

(3)石神井川

石神井川トンネル内（投網・手網）

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	36	29	1
2	オイカワ	37	29	1
3	ヌマチチブ	20~42	17~35	33
4	ウキゴリ属（種不明）	82	67	1
4	ウキゴリ属（種不明）	15	13	1

第3回投網調査の結果（平成26年9月30日）

(1)荒川

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	123~185	99~147	24

菖蒲川三領水門付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	141	113	1
2	ブルーギル	47	36	1
3	マハゼ	115	94	1

戸田橋下流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ゲンゴロウブナ	310	240	1

戸田橋下流1600m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	290~335	245~285	2
2	ボラ	194	154	1
3	スズキ	119~160	96~129	3

JR荒川鉄橋上流400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	89	72	1
2	ヒイラギ	44~60	36~48	3
3	マハゼ	113	90	1

JR荒川鉄橋上流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	84~122	69~99	16
2	マルタ	120	98	1
3	スズキ	145	116	1
4	マハゼ	111~130	89~103	4

新荒川大橋真下（投網・手網）

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タイリクバラタナゴ	13	11	1
2	コイ科稚魚（種不明）	19	15	1
3	コイ科稚魚（種不明）	15	11	1
4	ヌマチチブ	22~40	19~33	4

新荒川大橋下流600m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	93~125	75~103	21
2	ボラ	182	147	1
3	マハゼ	110	88	1

新荒川大橋下流800m付近（投網・仕掛け）

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	119~144	97~119	2
2	ボラ	320	255	1
3	ヒイラギ	44	38	1
4	ヌマチチブ	48~64	38~53	2
5	ウロハゼ	127	104	1
6	マハゼ	101~148	80~118	4

新岩淵水門と旧岩淵水門の間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	85~137	70~114	28

北区で見られる魚たち 1

—河川生物生息調査で捕れた種類—

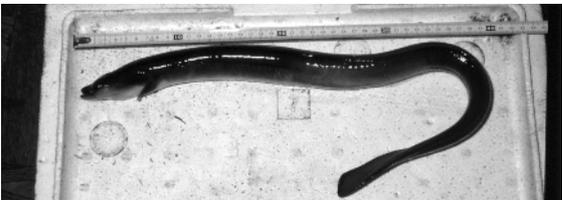
<1> サツパ



<2> コノシロ



<3> ウナギ



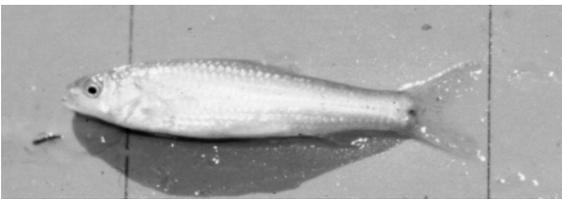
<4> アユ



<5> ワカサギ



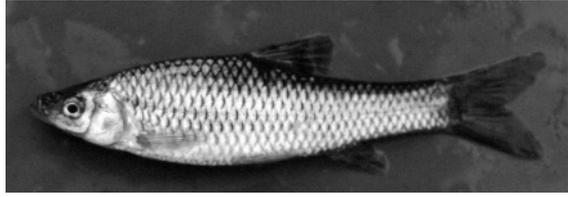
<6> タモロコ



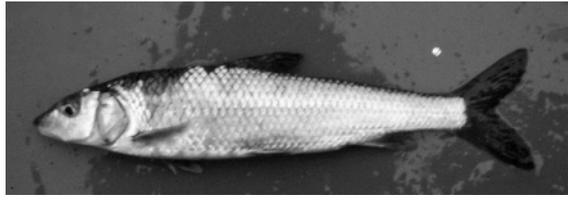
<7> スゴモロコ



<8> モツゴ



<9> ニゴイ



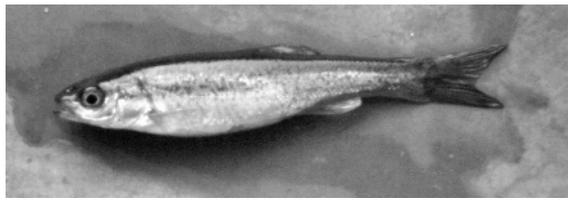
<10> カマツカ



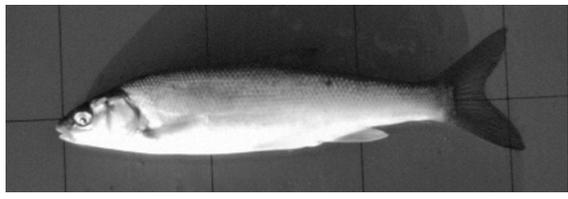
<11> ツチフキ



<12> アブラハヤ



<13> ウグイ

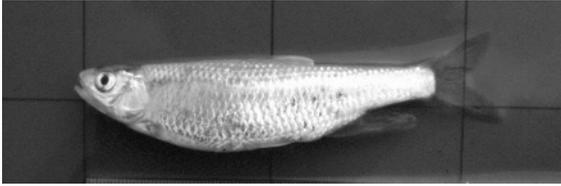


<14> マルタ

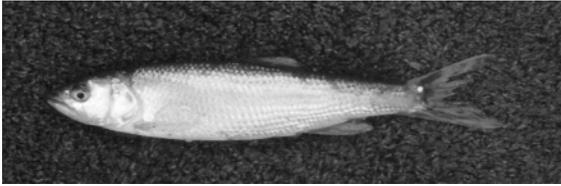


北区で見られる魚たち 2

<15> オイカワ



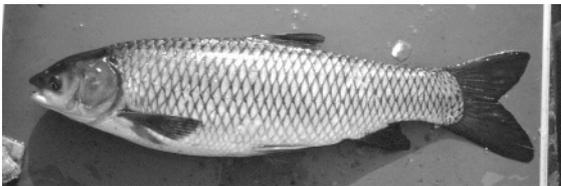
<16> ハス



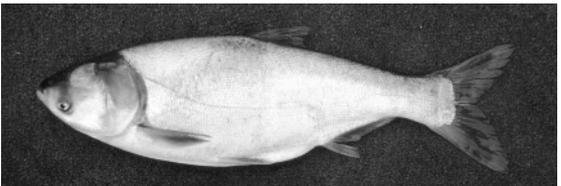
<17> ワタカ



<18> ソウギョ



<19> ハクレン



<20> コクレン



<21> キンブナ

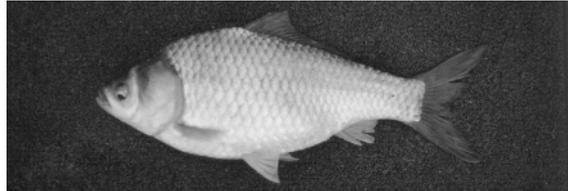


—河川生物生息調査で捕れた種類—

<22> ギンブナ



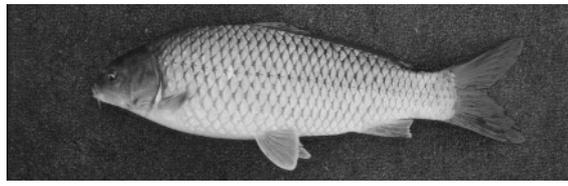
<23> ゲンゴロウブナ



<24> キンギョ



<25> コイ



<26> ヤリタナゴ



<27> アカヒレタビラ



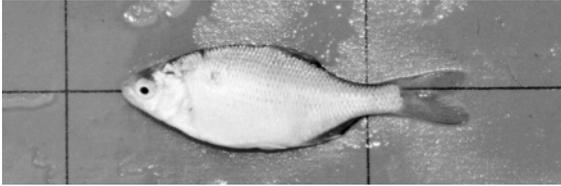
<28> タイリクバラタナゴ



北区で見られる魚たち 3

—河川生物生息調査で捕れた種類—

<29> ゼニタナゴ



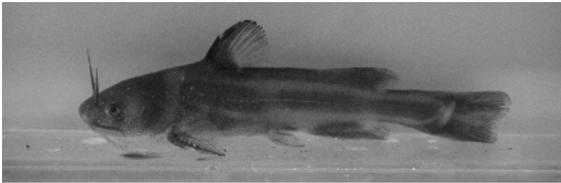
<30> ドジョウ



<31> シマドジョウ



<32> ギバチ



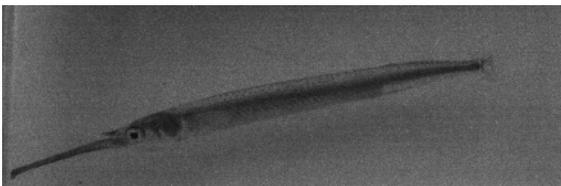
<33> ナマズ



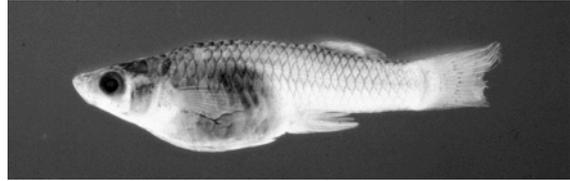
<34> メダカ



<35> クルメサヨリ



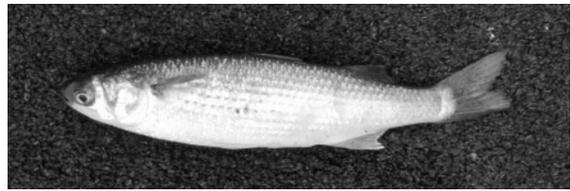
<36> カダヤシ



<37> グッピー



<38> ボラ



<39> カムルチー



<40> スズキ



<41> オオクチバス

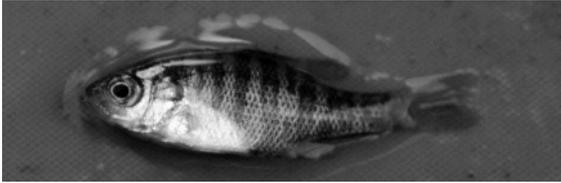


<42> コクチバス



北区で見られる魚たち 4

<43> ブルーギル



<44> ヒイラギ



<45> シマイサキ



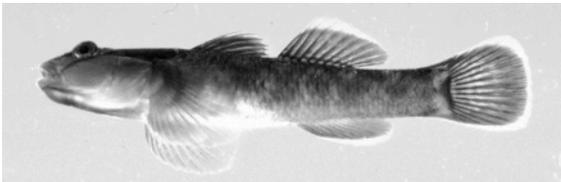
<46> コトヒキ



<47> アベハゼ



<48> ヨシノボリ(橙色型)



<49> ウロハゼ

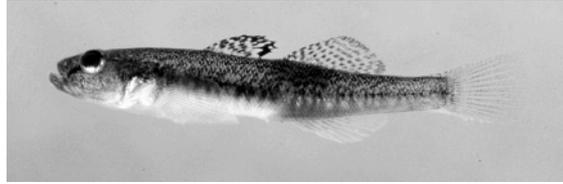


—河川生物生息調査で捕れた種類—

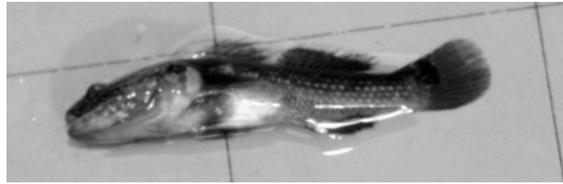
<50> ウキゴリ(淡水型)



<51> ビリンゴ



<52> ヌマチチブ



<53> シモフリシマハゼ



<54> マハゼ



<55> アシシロハゼ



1,10,11,26,28,31,35,36,45,46,47,48,50,51: 君塚芳輝氏撮影

35: 太田桐正吾氏撮影

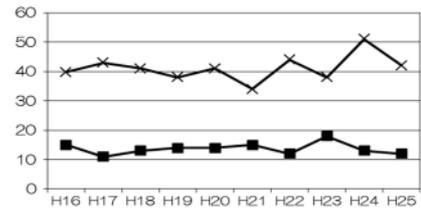
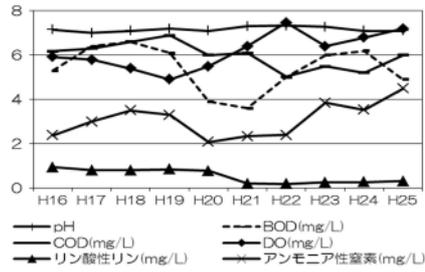
【年度別捕獲魚類一覧表】

番号	魚 類	S.59 年度	S.60 年度	S.61 年度	S.62 年度	S.63 年度	H.1 年度	H.2 年度	H.3 年度	H.4 年度	H.5 年度	H.6 年度	H.7 年度	H.8 年度	H.9 年度	H.10 年度	H.11 年度	H.12 年度	H.13 年度	H.14 年度	H.15 年度	H.16 年度	H.17 年度	H.18 年度	H.19 年度	H.20 年度	H.21 年度	H.22 年度	H.23 年度	H.24 年度	H.25 年度	H.26 年度	合計	
1	サッパ																																	19
2	コノシロ												4				29	7		6	1	98	19			91	21	19		39	20	65	419	
3	ウナギ							2	2	1		6				1									1		1		1		2	2	20	
4	アユ							1	1																							1	3	
5	ワカサギ															1	4				1	44	13	4			1		2				70	
6	タモロコ									2				1							3		6	12	8	1		11	9	15	11		79	
7	スゴモロコ		18	76		1				3		5								1	1	2	4			3	8				4	126		
8	モツゴ	5	18	9	稚魚	6	1	多数	58	61	72	46	22	149	75	236	507	67	42	19	297	235	192	231	192	189	109	48	50	102	137	31	3206	
9	ニゴイ	11	9	7	稚魚	2		15	5	16															12	7	14	11	24	4	26	7	267	
10	カマツカ				1																	1	1										3	
11	ツチフキ					1																	1										2	
12	アブラハヤ																	6		2	11	2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	949	
13	ウグイ	3	1	1	2	1	5	9	4		20																					1	47	
14	マルタ						2	1	10	4	3	11	3	5	13	30	7	9		4	28	12	54	7	5	30	66	28		3	23	19	377	
15	オイカワ	1	13	2	稚魚			2					1	1		1	6	2		1			110	31	60	3	90	19	31	35	31	6	446	
16	ハス		1	1	6+稚魚	2		1	1	1		6	3	1		1	3			7	1				6	2	12	1	1	2	13	74		
17	ワタカ																	8	2		1				1								12	
18	ソウギョ	2	3		1																				1								6	
19	ハクレン	42	2		4	2	6		7	3	2	1			1	1	13	3		5	1	1	2	1	2		2		1			102		
20	コクレン							1																									1	
21	キンブナ						2	7	2		1			11													1		2				26	
22	ギンブナ	22	44	147	20+稚魚	6	19	14	29	31	15	23	22	53	11	12	9	9	9	2	4	5	14	13	74	64	40	36	18	65	26	4	860	
23	ゲンゴロウブナ	2	7	8	15	17	13	24	28	6	8	15	3	7	8	1	9	10	22	2	14	14	5	16	7	3	7	5	5	9	3	1	294	
24	キンギョ			1					1			1			1							23	1	3	1		13	10		1			56	
25	コイ	43	18	41	15	8	9	3+多数	14	15	7	8	12	15	18	6	10	9	20	9	8	84	4	13	17	7	16	10	10	3	7	3	462	
-	Jとカの雑種																										1			1			2	
-	コイ科稚魚																																2	2
26	ヤリタナゴ																												2					2
27	アカヒレタビラ																						1											1
28	タイリクバラタナゴ				微小			19				3	2	2	42						1		2	1	2	27	34	53	55	9	14	4	270	
29	ゼニタナゴ								1																									1
30	ドジョウ							1						2	1	14	19	6		1	11	33	140	23	41	19	22	41	18	7	4	21	424	
31	シマドジョウ																																1	1
32	ギハチ																						8	2	1			3	13	4	2	1	34	
33	ナマズ							1																										1
34	メダカ				微小							70		1	20	97		3			2	12	8	4	1		10	2	3	1	2	236		
35	クルマサヨリ																															1	2	4
36	カダヤシ															5						5	3	42	7		6	11	1	1	5	6	92	
37	グッピー													1	1							1			9	2			7	4			25	
38	ボラ		2	5	3	3			1	11	2	7	22	64	62	17	71	41	30	20	22	49	100	72	34	49	61	26	72	16	322	59	1243	
39	カムルチー										1															6			94	2				103
40	スズキ			2	1		2	1	1	2	5	3	8	8	10	4	28	20	17	9	12	10	12	17	28	56	20	27	20	99	106	16	544	
41	オオクチバス																					2	1	5			1							9
42	コクチバス																																1	1
43	ブルーギル				1			3	1			1		1		2						10	15	10	1	16	4	6	7	16	17	6	117	
44	ヒイラギ															1	13			23	2		1	1	2	240	4	45	1	17			350	
45	シマイサキ										2										1				3	2	2	1	1	5			17	
46	コトヒキ																											1						1
47	アベハゼ																						1	1		2		13		4	43	3	67	
48	ヨシノボリ(橙色型)																				9		13	18	3	4	2	1			4		54	
	ヨシノボリ(型不明)							4					4		2	5																	15	
49	ウロハゼ																															1	1	
50	ウキゴリ(淡水型)																				1	2											3	
	ウキゴリ(種不明)															1								3	1							2	7	
51	ピリソゴ										2	2		9									2		1						1		17	
52	ヌマチチブ									10		5	2	1	9	7	1	2		6	56	7	71	36	104	24	38	44	20	22	20	82	567	
53	シモフリシマハゼ					1		1	1			4	2	6	7	2	1		1			1	4	13	1	2	3	7	1	5	1	7	71	
54	マハゼ		35	2	3	83	6	76	27	232	35	146	187	50	192	65	84	38	61	65	60	53	76	30	77	48	39	92	24	166	78	89	2219	
55	アジシロハゼ															1					1			2	6		2	4		3	2	4	7	32
	合計魚尾数	131	171	302	72	133	65	182	197	399	173	373	297	393	477	507	812	270	213	191	562	713	936	739	774	739	811	823	628	754	1084	538	14459	
	種 類 数	9	13	13	17	13	10	20	19	16	13	21	15	21	18	21	20	19	11	19	24	25	36	28	28	27	27	31	31	30	33	30	55	

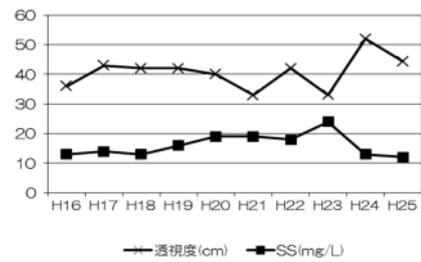
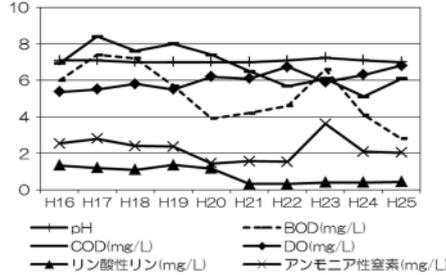
注：稚魚は稚魚多数を表す（荒川での四つ手網による捕獲）。多数は成魚多数を表す。

【河川水質の経年変化】

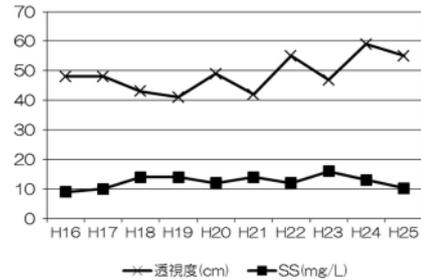
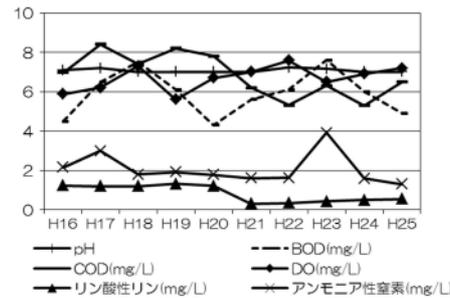
荒川（新荒川大橋）



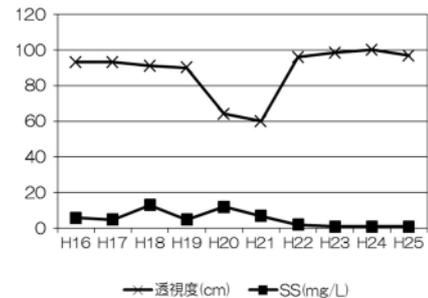
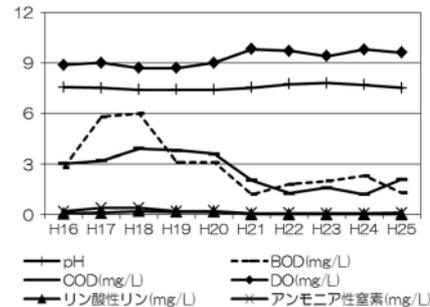
隅田川（新田橋）



新河岸川（岩淵橋）



石神井川（松橋）



【北区を流れる河川の環境基準】

河 川	基 準 値			
	水素イオン濃度 (pH)	生物学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
荒 川 隅 田 川 石 神 井 川	6.5 以上 8.5 以下	5mg/ℓ以下	50mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上
新 河 岸 川	6.0 以上 8.5 以下	8mg/ℓ以下	100mg/ℓ以下	2mg/ℓ以上

- 水素イオン濃度 (pH)： pH7が中性、それよりも数値が大きいとアルカリ性、小さければ酸性です。
- 生物学的酸素要求量 (BOD)： 5日間に水中の有機物を分解するために好気性微生物が必要とする酸素の量で、この値が高いと川は汚れており、BOD10mg/ℓを超えると、水は悪臭を発生するようになります。
- 浮遊物質 (SS)： 水中に浮遊している不溶性の物質で、川底にたまったり魚介類に付着したりします。
- 溶存酸素量 (DO)： 水中に溶けている酸素の量です。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚介類は生存できません。魚には最低5mg/ℓが必要とされています。



北区河川生物生息調査報告書

平成 27 年 3 月

刊行物登録番号

26-3-051

発行／北区生活環境部環境課

〒114-8508

東京都北区王子本町 1-15-22

T E L 03 (3908) 8618 (直通)